



渡邊海旭先生
校長就任百周年記念事業

第5回

公開シンポジウム

「いのち」について考える

【基調講演】

「いのちを生きる
子どもたちのために
高大接続改革の展望」



安西 祐一郎氏
日本学術振興会 理事長
前慶應義塾長

【対談】

大谷 徹装氏

法相宗大本山薬師寺執事 77回生

林田 康順氏

大正大学仏教学部仏教学科教授 79回生

◎進行

春日 利比古

芝中学校高等学校 校長

【シンポジウム】

社会で「生き抜く」力を
大学で身に付けさせる
ことができるか

西山 宣昭氏

金沢大学 国際基幹教育院 教授

青野 透氏

徳島文理大学 総合政策学部 教授

杉森 公一氏

金沢大学 国際基幹教育院 准教授

日時

2017年
1月28日 土

午後2時～5時
【開場午後1時】

会場

芝学園講堂

先着

千二百名

入場無料

予約不要

*しなだでも聴講できます。
お気軽においで下さい。

1月28日 土

午前9時～午後1時

芝ミュージアム

グラランドオープン

【主催】学校法人芝学園 芝中学校 芝高等学校

【後援】芝学園同窓会

【お問合せ】

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-37
☎03-3431-2629

芝中学校第三代校長、渡邊海旭先生が、明治44年(1911年)9月、校長に就任されてから、一世紀を経た今日まで、仏教精神である「共生(ともいき)」のこころと、先生が校訓として定められた「遵法自治(じゅんぼうじち)」の精神は芝教育の根本理念として脈々と受け継がれてきました。

生徒ひとり一人の個性を尊重し、周囲の人々によって生かされていることを認識する人間教育は芝学園の誇りでもあります。このシンポジウムも5回を数えることとなりました。

今回は、これまでの総括篇と位置づけ、学術と宗教の両面から、「いのち」について考察することといたしました。

基調講演には、高大接続改革の中心的な役割を務められている、安西祐一郎先生をお迎えすることができました。実はこれも、芝中学校の伝統が生かされた「ご縁」によるものなのですが、それがどんな「ご縁」なのかは、当日のお楽しみとさせていただきます。

2部・3部は、高等教育機関の現場の声と、仏教という宗教の深淵について、それぞれの分野の専門家に、熱く、そして、わかりやすく語っていただこうと思っております。

どうか、芝中学校 芝高等学校からの発信にご注目ください。

お陰様で、芝学園も創立110周年を迎えることができました。

【第2部 シンポジウム】

大学教育の質的転換が今強く求められています。従来の一方的な知識伝達の教育から学生自ら問題・課題発見、仮説形成等を行うアクティブ・ラーニング教育へと転換を図りつつあります。このような大学教育の転換の現状を踏まえた上で、学生に本当に力を付けさせる教育を行うことができているのかについて、各パネリストの教育実践を紹介しながら議論します。

渡邊海旭 先生 略歴

- 1872(明治5年) 浅草田原町に生まれる。
- 1887(明治20年) 浄土宗学東京支校に入学する。
- 1898(明治31年) 西光寺住職となる。
- 1900(明治33年) 浄土宗第1期海外留学生として、ドイツ(現フランス)のストラスブルグ大学へ留学する。
- 1910(明治43年) 帰国する。
- 1911(明治44年) 9月、芝中学校第三代校長就任。のち逝去まで勤める。
- 1926(大正15年) 浄土宗の最高学位勸学に叙せられる。
- 1932(昭和7年) 仏教研究所所長就任。
- 1933(昭和8年) 1月26日逝去(61才)。

